

S-7

15:10～15:25

難治性疾患の和漢薬治療—強皮症をめぐる④

皮膚科領域からみた全身性強皮症(SSc)の病態と和漢薬治療の現状

○前田 学

県立岐阜病院・皮膚科

全身性強皮症(SSc)は皮膚をはじめ、心臓、肺臓、食道や腎臓などの内臓病変を伴う未だ原因不明の結合組織疾患であるが、手指のレイノー現象で初発し、強指症から徐々に皮膚硬化が中枢側に波及する例が多い。皮膚科領域から強指症以外にも、指尖陥凹性小癬痕、顆粒状角化、爪周囲紅斑、爪上皮の延長・多層化や点状出血(出血塊)、舌小帯の短縮・白色化(舌中央部のクローバ様陥凹)や小口症・口周囲の放射線状皺壁、色素沈着や色素脱失など特徴的な所見の多い疾患の一つでもある。そこで今回は診断のよりどころとなる特徴的な皮膚病変を紹介すると共に、和漢薬併用の治療成績も検討した。

A) 特に皮膚科的に注意すべき特徴的所見

1) 露出部

- a) 手指；強指症、指尖陥凹性小癬痕、爪周囲紅斑、爪上皮の延長・多層化や点状出血(出血塊)、色素沈着(脱失)、顆粒状角化
- b) 前腕；皮膚硬化、色素沈着・脱失
- c) 顔面；皮膚硬化、小口症、鼻先尖鋭化、口周囲の放射線状皺壁、色素沈着・脱失、舌小帯の短縮・白色化(舌中央部のクローバ様陥凹)

2) 非露出部

躯幹；皮膚硬化(汎発性)、色素沈着・脱失

B) 和漢薬使用の目標と効果

- a) 瘀血状態；瘀血スコア値は特に汎発性強皮症は高値で、爪上皮出血もこの状態と考えられ、駆瘀血剤の適用となる。ただし、同スコア値は投与前後であり差がない。実証から順に黄連解毒湯、桃核承気湯、桂枝茯苓丸、当帰芍薬散等を使用している。色素沈着もこの瘀血に該当する。
- b) 気逆；初発症状の一つとして重要なレイノー症状がこの気逆に該当する。和漢薬は特効的とは言い難いが、人参養栄湯が有効とする報告がある。長期に当帰四逆加五苓生湯を使用すると指先容積脈の改善を認める例もある。
- c) 水滯；水毒とも呼ぶが、シェーグレン症候群合併例には利尿作用を有する和漢薬が卓効することが多い。五苓散や真武湯、加工附子を使用する。